

# てんかん治療ネパールで支援 広島大病院 来年から

広島大病院(広島市南区)

は2020年1月から2年間、ネパールでのてんかん治療支援事業に取り組みこ  
とを決めた。同病院の一  
てんかんセンター」の医師が  
現地に赴くなどして医師や  
看護師、技師たち約50人の

養成を目指す。

計画では、飯田幸治セン  
ター長たちが年2回、現地  
を訪問。首都カトマンズの  
病院や周辺地域で開かれる  
無料診療キャンプで診察や  
脳波検査の指導、助言をす  
る。広島大病院での研修の  
ため現地の医療者も招く。  
解析の難しい脳波データ  
を病院間で送受信し、遠隔  
診断する仕組みづくりも計  
画されている。飯田センタ

「長は「実現に協力したい。  
システムができれば日本に  
転用し得る」と話す。

センターによると、ネパ  
ールのてんかん患者は15万  
人と推計されるが、同国の  
専門医は7人程度。医療者  
の間でも病気への理解が進  
んでいないという。広島大  
病院は、同大への留学経験  
がある現地医師を支援して  
きた縁で事業化することに  
した。

一連の事業は国際協力機  
構(JICA)の支援事業  
に採択され、1千万円の資  
金援助を受ける。

(田中美千子)

## クリック

てんかん 脳が過剰に興  
奮し、けいれんや異常行動  
意識消失が起る病気。脳

の形成異常や脳梗塞など要  
因はさまざま、年齢を問  
わず発症する。薬による治  
療が主流で、近年は外科手  
術も普及しつつある。

中国新聞の許諾を得ています

掲載日付 2019年8月31日